

平成二〇年度四国森林 管理局決算概要を公表



四国森林管理局の決算概要を公表しましたので、次のとおりお知らせします。

平成二〇年度における国有林野事業については、森林の公益的機能の維持増進、地球温暖化防止対策に積極的に取り組むとともに、財政の健全化に努めた結果、収入二四五億円に対し、支出は二四三億円と収支差はプラス二億円となりました。

一、収支状況

(一) 収入について

① 自己収入は、

ア 林産物等収入は、素材販売単価の下落等により前年度より一・五億円減少。

イ 林野等売却代金は、地価の下落及び優良物件の減少により前年度より〇・七億円減少。

② 一般会計より受入については、治山事業費等に要する経費の受入減等から、前年度より八・四億円減少。

③ 借入金については、平成一六年度以降、五年連続して新規借入金金はゼロ。

(二) 支出について

① 給与関係経費は、職員数の適正化等により、前年度より

一・三億円減少

② 森林保全・環境の整備にかかる経費は、地球温暖化防止等に向けて間伐等の森林整備を進めたことから前年度より九・六億円増加。林道災害復旧経費は、〇・四億円増加。

③ 償還金は、前年度より三・四億円減少し、支払利子は、借入金(借り換え)に伴う利率の低減により一・一億円の減少。

二、損益計算書の要旨
経営費〇・五億円減少、売上高で一・七億円減少したこと等から損益計算書上の損失は前年度より一・二億円減少の二七・六億円となりました。

三、貸借対照表の要旨
(一) 資本は、資本剰余金七六・六億円の増により三、五六九億円。

(二) 負債は、長期借入金が四・二億円減少したものの未払金及び短期借入金等が二・六億円増加したことにより、前年度から一・七億円減少し四〇五億円。

このうち債務残高は長期借入金三〇八億円及び未払金等に含まれる短期借入金六八億円をあわせて三七六億円となり、前年度と同額となりました。

【参考】治山事業の概要

一、国有林野事業特別会計において山地災害の復旧・防止及

び保安林の整備等を目的として、四五・六億円の治山事業を実施しました。

(一) 国有林野内直轄治山事業では、国有林野内において溪間工、山腹工等の治山施設の整備及び保安林等の森林整備を実施。

(二) 民有林直轄事業では、治山事業を徳島県祖谷川地区外二箇所で、また、地すべり防止事業を徳島県祖谷川地区外四箇所で実施。

二、一般会計において、山地災害の緊急復旧を要する箇所で一億円の治山事業を実施しました。

各地の たより

木工クラフト



「止めたくなーい!」
「ふれあいセンター」

当センターでは、端材や間伐材の小枝などを活用したクラフト作りを通して、木の利用を考えた森林や自然環境への関心を高めてもらおうと、小・中学校で出前の木工教室を実施して



作業の状況

います。

一〇月八日、四万十市立川崎小学校五年生八名を対象に、動物の置物や携帯ストラップなどの作り方を指導しました。

始めに、森林の働きや、その森林からの贈り物である材料を使うことを説明してクラフト作りに取り組みました。

いざ始めると、「何を作ろうかな?」と悩んでいましたが、見本通りに挑戦する児童、全く独自の発想で作りは始める児童と様々でした。それでも約二時間後、個性豊かな作品が次々に完成すると、皆、とても満足そうな表情でした。

後日、「水が森林で守られていることが分かった」「木工体験は止められないほど楽しかった」などの児童の感想が寄せられ、森林や木材への関心・興味に繋がる教室となりました。

四万十川流域の国有林で 中・高生がフィールドワーク



一月五日、津野町の船戸山国有林を訪れたのは、四万十町にある四万十高校と十川・昭和・大正・北ノ川の各中学校の生徒七〇名。四万十川流域の森林や環境を学習したいとの支援要請を受け、源流点や源水の地があり原生林が残る「不入山」と、高知県西部の代表的な人工林である「西の千本山」をフィールドとし、四万十森林管理署とふれあいセンター職員が説明にあたりました。

「西の千本山」では、スギ展示林の胸高直径を測定したり、両手を広げてその大きさを体感しました。一方、源流点から源水の地までは歩きづらく、生



「うわー大きい!」四万十高校外



間伐「ガンバレ！」 神奈川学園

奈川学園高校二年生三六名が、四万十川の支流、黒尊川源流域の「八面山」をフィールドにして、森と川の関係、自然や環境などについて学習しました。生徒達は、職員が歩道沿いの樹木の特徴やニホンジカの食害などを説明すると、熱心に聞き入りデジタルカメラに納めていました。午後は、黒尊山に移動して間伐を体験しました。間伐の重要

徒達は疲労困憊の様子でしたが、四万十川の始めの一滴を見てニッコリ。複層林施業や「郷土の森」、森林の土壌などについても理解を深めてもらいました。実施後、先生からは、「充実した研修となった」と好評をいただきました。

なお、当日の様子は、地元テレビ局のニュースで紹介されました。

一月一〇日、横浜市の神奈川学園高校二年生三六名が、四万十川の支流、黒尊川源流域の「八面山」をフィールドにして、森と川の関係、自然や環境などについて学習しました。生徒達は、職員が歩道沿いの樹木の特徴やニホンジカの食害などを説明すると、熱心に聞き入りデジタルカメラに納めていました。午後は、黒尊山に移動して間伐を体験しました。間伐の重要

始めに、自分で移動することができない植物が、様々な工夫をして種子を移動させていることや、草花だけではなく樹木にも種子があることなどを、本物の種子を使いながら説明しました。その後、風を利用するラワンやニワウルシなどの種子の模型を作り、校庭や体育館で飛ばす実験をしました。特に、スチロールを使ったラワンの模型は

性については学習済みでしたが、作業は初めてで、職員から安全作業の心構えを教わり、早速、開始しました。ノコギリを手際よく扱う生徒、悪戦苦闘の生徒と様々でしたが、約一時間かけて全員が体験し、満足そうな表情でした。

今回のフィールドワークを通して、黒尊川源流域と同校の近くを流れる鶴見川との違いに気付くことに繋がったのではないかと考えます。

「飛んだ飛んだ」
— 模型を使って種子の学習 —
〈ふれあいセンター〉



「飛んだー！」

大人気で、「ワー、飛んだ飛んだ」と大喜び。本物の種子の飛び方が連想できたようです。

学習後には、「風以外の方法で、種子が移動することが分かった」「模型のタネがクルクル回って飛び、ビックリした」などの発表がありました。

両日とも、模型を使ったことで、下級生にも理解しやすく楽しい学習になりました。

地域の産業祭でPR
〈ふれあいセンター〉

一月一五日、四万十市西土佐で産業祭が開催され、当センターも後援団体として参加しました。

会場となった西土佐中学校には、地域の特産品や児童の書画、



パネル展示の様子

手工芸品などが多数出品されました。ふれあいセンターは、自然再生や森林環境教育などを中心に、パネル写真を展示して、日頃の活動をPRしました。来場者は、地元である黒尊山のシカ食害対策の取組や、森林教室の写真に知り合いの小・中学生を見つけると、熱心に見学していました。

このような地域行事への参加は、ふれあいセンターを知っていただく絶好の機会となりました。

今回は、昨年度の提言を受けて、一〇月にシカ防護ネットを設置した黒尊山国有林一林班のシカ食害の現状と、平成一九年三月、滑床山山頂（通称「三本杭」）及びその近くの通称「たるみ」で、シカ防護ネット内に移植したミヤコザサの生育状況等を確認しました。

山頂では、所長が、モニタリングを基に、「移植したササは、概ね順調に定着、成長している。なおかつ、移植した方形区から外に拡がりを見せている」と報告しました。出席者からは、「ササの定着が悪い箇所は、補植してはどうか」「土砂流出によりササの地下茎が動く」と定着しない。周囲の枯れ木などを活用した土砂止め措置が必要ではないか」「三本杭の下にもギャップがある。対策が必要

植生回復に願いを込めて
〈ふれあいセンター〉

一月一八日、関係機関、有識者等の出席を得て、「第五回滑床山植生回復検討会」を開催しました。



植生回復検討会の様子



植樹中

中学生が林業体験

〈ふれあいセンター〉

ではないか」等、多くの意見が出されました。
 今後の取組としては、提言された内容について、有識者の意見も聞きながら検討をしていくこととしました。併せて、滑床山では、モニタリングの継続とともに、ササ等の植生回復の可能性が高い箇所への防護ネットの設置を、黒尊山では、ムシロなどを使った土留め措置の試験地を設けることとしました。

一月一日、四万十市立大用中学校一年生四名を対象に、植樹と間伐を指導しました。
 これは、道徳の時間に、環境活動家ワンガリ・マータイさん

の植林活動を学習したことや、一〇月の森林教室で、森林の働きや間伐について学習したことから、学校近くの国有林に行き、植樹と間伐を体験することになったものです。

始めに、ポット苗のカヤを植樹しました。初めて鋏を持った生徒もいましたが、「大きく育つて」の願いを込めて手際よく作業が進み、シカ食害防止用のツリープロテクターも取り付けました。

間伐は、職員から安全作業の注意点を聞き、一人一本ずつ体験しました。始めは、鋸の扱いに苦労している様子でしたが、徐々にコツを掴み、無事作業を終了しました。

生徒代表からは、「植樹と間伐が体験でき、とても良かった」との感想があり、一〇月の事前学習と今回の体験学習を合わせた森林教室で、森林への関心・理解が一層深まったようです。

間伐材を授業で利用

〈ふれあいセンター〉

一月八日、十和森林事務所管内の市ノ又国有林で四万十町立昭和中学校全校生徒三四名が間伐体験を行いました。当日は、四万十森林管理署職員とともに



間伐作業の様子

指導にあたりました。

四万十町は、林業が基幹産業の一つでもあり、「幡多ヒノキ」の優良産地で、積極的に良質材を育てて利用しています。生徒達が実際に地域産業を体験し、間伐材を授業で活用することで地域環境にも意識を高めていくことが目的です。

生徒達は鋸の取り扱いに苦労していましたが、協力しながら作業を進めていきました。倒したヒノキは四万十中央森林組合の職員の方に造材してもらい、全員でトラックに積み込みました。今後、この材を半年程乾燥させ、製材して授業の中で机等を製作する予定です。

生徒達は、間伐を体験することで地域産業の重要性や森林の役割を再認識したと考えます。

職場体験学習

〈香川森林管理事務所〉

香川所では、一月一〇日（火）から一二日（木）までの三日間、高松市立紫雲中学校二年生の職場体験学習を行いました。職場体験学習は、「仕事の現場で働くことを通して、職業について正しい知識を得るとともに、自分の趣味や適正と照らし合わせながら、自分の進路について深く考え、正しい職業観を身に付けること」を目標として行われるもので、今回は二名を受け入れました。

一日目は、野外に出てコンパス測量を行いました。中学生の飲み込みは早く、測量後半にさしかかる頃には、少々足場の悪い場所でもコンパスを据えられるようになっていました。事務所に戻り測量結果を元に製図を行いました。なれない作業に四苦八苦していました。

二日目はあいにくの雨のため、午前中は所内で収穫調査の取りまとめを行い、職員が調査したデータを元に樹高曲線図を画いて、材積を計算しました。

午後は当所が森林や林業に対する普及啓発活動としてイベントや森林教室等でよく行うつるかご編みを行ったり、竹でうぐ

いす笛を作ったりしました。
 三日目は天候も回復したため、屋島国有林内で下草刈りを行いました。使い慣れない大きな鎌を使つての作業なので、大変だったようです。その後木材の搬出現場に行き、監督業務を手伝いました。高性能林業機械や架線集材の集材機など、見たこともない珍しい機械に目を丸くしていました。

当所の業務内容は、一般の方々の目に留まることは少なく、その点で中学生にも目新しいものが多かったようです。この職場体験学習を通して、森林の大切さや、ほんの一部ではありますが、国有林野での現場作業の大変さ、安全に作業することの重要性を体験できたのではないかと思います。仕事することは楽しいことばかりではなく、危険なことやつらいこともありますが、この職場体験学習を通して働くことの意義を少しでも理解してもらえたものと思います。



測量体験の様子

つるで編むかご作り

〈香川森林管理事務所〉

一月一六日(月)、香川県立屋島少年自然の家で、古高松南コミュニティセンターが企画したつるかご編み教室が開催され、当所から講師を派遣しました。コミュニティセンターの方にお聞きしたところ、この講座は募集を途中で打ち切るほど人気があり、今回は主婦を中心とした約三〇名が参加されました。

最初に、香川森林管理事務所職員が、香川県内の国有林や屋島国有林の紹介と森林でつる植物が樹木に与える悪影響やつる植物の利用について説明をしました。香川県は全体として森林面積が少ないため、日頃から森林に接する機会も少ないのですが、屋島や栗林公園に近い峰山、飯野山などに代表されるように比較的身近な場所に国有林があることから、小学生を対象とした森林教室やこのような機会を通して国有林について理解を深めていただくように日頃から努めています。



つるかご作り

だけのつるかごを作ろうと意気込んでいました。

つるが集まったところで、よいよつるかご作りです。初心者の方は当所の職員の手を借りながら、ベテランの方は自分でつるを組み、編んでいきました。つるの色は、種類によって様々なので、それらをうまく組み合わせ、色のコントラストを生かしたかごを作っている人や、つるの曲がり具合を生かしてかごを編んでいる人もいました。途中、ある程度の力が必要なためかごの成形に苦労する人もいましたが、編み始めて二時間後には、ほとんどのかごが完成し、それぞれがとても個性的でした。当所では、このような機会を通じて森林や国有林に対する興味や理解を深めていただけるよう今後も積極的に取り組んでいきたいと考えています。

高校生が職場見学

〈高知中部森林管理署〉

一月一九日、当署に高知県立高岡高校の一年生二三名が職場見学に訪れました。

高岡高校では、生徒が自己実現できる基盤を養うことを目標に「キャリア教育」を実施しており、今回はその一環として、森林・林業について理解を深めることをテーマにした見学・研修を行うということで依頼を受けたものです。



森林・林業について勉強している様子

当日、署長のあいさつの後、世界の森林・日本の森林・四国の国有林などについて話を進めていきました。実際に業務で使っている施業実施計画図を手渡し、図面の見方を説明すると、生徒達は興味深げにうなずいて

いました。

最後に、「実際、どれくらい割合で森に行くのですか。」「山へ行くと疲れないですか。」「などの質問があり、ざっくりばらんな雰囲気職場見学を終えました。生徒達は日頃あまり山には入る機会が無いようでしたが、今回の研修で、森林・林業に対して理解を深める一助となったことと思います。

ふれあいの森で保育間伐

〈高知中部森林管理署〉

【一月一四日】

ヒカリ石国有林にある「物部川源流ふれあいの森」にて、「物部川二一世の紀森と水の会」が募ったボランティア二二名が保育間伐作業を行いました。

当日の作業開始時には小雨が降り、悪天候も心配されましたが、作業を進めると次第に晴れ間が見えるようになりまりました。

作業は、ベテラン参加者を中心に四〜五人の班に分かれ、ゆっくりと進められました。現地はツルがらみが多く、かかり木処理に時間をとられていました。地拵え・植樹・シカ食害防護柵設置などのボランティア活動を経験している参加者からは、

「間伐が一番やりがいがある。」「何十年も育ってきた木を伐るのは申し訳ない気がする。」「などの感想が聞かれました。今年度で協定期間は終了しますが、協定更新を行い、来年度も引き続き作業をしていただけることと、今後も森林を育てる活動に多くのボランティアが参加されることを願っています。

【一月二日】

西熊山国有林にあるふれあいの森、「共に考えようin物部の森」にて、NPO法人我が家を見直す会が募ったボランティア一三名が保育間伐作業を行いました。

当日は標高の高い尾根沿いには霧氷がみられるなど、大変寒い中での作業となりましたが、参加者達は使い慣れないながらも鋸や鉋を駆使し、一本二本と切り倒していくと、体もあたたまり着ていた上着を脱いでいました。



間伐作業の様子

今回は、五歳の最年少参加者をはじめ、インド出身の高知大留学生にも参加し、多彩な顔ぶれとなり、いつもに増して安全には十分注意しながらの作業となりました。そのため、間伐の実行面積は少なかつたのですが、森林に親しみ、間伐の重要性を知っていただくには良い機会となったようです。

作業終了後、参加者全員で昼食をとり、業務課長からの今後の活動に期待する旨の挨拶で締めくくり、現地を後にしました。

遊々の森で巣箱がけ

〈高知中部森林管理署〉

一月二六日、ヒカリ石国有林内に設定している遊々の森で、香美市立大柄小学校五年生一四名が鳥の巣箱がけを行いました。大柄小学校は森林環境教育に熱心に取り組んでおられ、子どもたちは今年度すでに二回の森林学習をしており、この巣箱は今年六月に行った森林教室の時間を利用して作成したものです。紅葉の見頃は終わりを迎えていましたが、当日は好天に恵まれ、暖かい日差しの中で作業をすることができました。斜面が急なところもあり、子どもたちは転びそうになりながらも思い



巣箱がけした小学生

思いの木を見つけ、しっかりと巣箱をくくりつけました。現地では実際に、前年度の卒業生が巣箱をかけたところで、ヒナがかえっており、来春に向けて子どもたちは期待に胸をふくらませているようでした。

山岳救助における応急手当及び緊急連絡訓練の実施について

〈安芸森林管理署〉

一月三日、田野町ふれあいセンターにおいて、「山岳救助における応急手当及び緊急連絡訓練」の講習会を実施し、署長以下、安全推進委員や現場職員七五名が参加しました。

講習会では、奥地山岳における山林作業中の労働災害を想定し、災害発生時の緊急連絡及びヘリコプターによる救助時の基

本的対応事項等、また応急手当等の適切かつ迅速な対応が出来るよう中芸消防本部の協力を得て救急法講習を実施しました。はじめに、中芸消防本部から県東部地区は山岳地帯であり、緊急災害時の救助等に防災ヘリの出動回数が増加してきていること、また、ヘリコプターによる救助時の連絡体制や被災箇所の特定方法、揚収する際の注意事項等について映像での説明を受け、ヘリコプターでの揚収には気象条件や被災箇所の地形状況など様々な条件が要求されることを再認識しました。

そのあと、応急処置として止血方法、骨折時の副木、毛布等での担架の作り方等をグループに分かれて実技指導を受けました。午後からは四グループに分かれて、人工呼吸、心臓マッサージ、AEDによる心肺蘇生方法



講習会の様子

等を人形を使って実技指導を受けました。受講にあたってはそれぞれの職員が、緊急時に誰でも対応が出来るようにと交代で実技訓練を実施するなど、各自真剣に取り組んでいました。また、一月四日〜一〇日までの間に、各現場から衛星電話で緊急連絡模擬訓練を実施し、いざというときのため、適切な対応ができるようにしています。

合格おめでとう ございます

平成二一年度森林インストラクター資格試験の合格発表が一月二日にあり、四万十森林管理署の森下嘉晴さんが合格しました。

第五回森林の俳句 コンテスト入賞者決まる

〈総務課〉

今年度も六月一日〜九月二二日まで小中学生を対象に、森林・林業に関する俳句を募集したところ、四国四県から八十八校、二、〇二四句と多数の応募があり、選者二名による厳正な審査の結果、入選者が決まりました。

〈小学生の部〉

四国森林管理局長賞

吉野川市立牛島小学校 五年 北川 大輝
ぼく植えたカラコキカエドあい
たいな

最優秀賞

大洲市立豊茂小学校 三年 久保 和己
あぶらぜみよくとまる木はさくら
の木

優秀賞

徳島市立川内南小学校 三年 坂東 七穂
谷川をながれる水に糸トンボ
八幡浜市立松蔭小学校 四年 宇都宮あみ
秋の山赤、黄のえのぐへついで
鬼北町立愛治小学校 五年 高田 未来
たきの音森のおくからきこえるよ

秀逸

徳島市立津田小学校 二年 東出きようへい
あせいっぱいみんなであえたこ
ならの木
吉野川市立牛島小学校 四年 桂 洋輔
山ぎわのへん路小道はせみしぐれ
吉野川市立牛島小学校 四年 下藤 京也
若き日の母も登った登山道

丸亀市立郡家小学校

六年 加藤 猛

夏の森思わずふかく深呼吸

四国中央市立金生第二小学校

二年 重見しようご

アカマツのさるのこしかけすわ

れるかな

四国中央市立金生第二小学校

五年 斎藤 亜季

道ばたのどんぐりくりの実まだ

あおい

八幡浜市立松蔭小学校

六年 宇都宮 さや

陸上部木蔭をさがし汗ぬぐう

大洲市立豊茂小学校

二年 菊地 生馬

ねむの木が 風にゆられて 花

おとす

宇和島市立立間小学校

五年 宮本 雛

こもれ日がキラキラ光る夏の森

宇和島市立高光小学校

二年 菊池 萌花

しんりんのこんちゅうつかまえ

すぐにがす

徳島市立川内南小学校

六年 新居田 涼

夏空に緑の眉山と入道雲

徳島市立川内南小学校

五年 大弥 静夏

青々と色あざやかに夏木だち

吉野川市立牛島小学校

六年 助道京一郎

ふと見ればのいちご実った森の道

吉野川市立牛島小学校

四年 上田 朝日

森の中いつかトトロにあいたいな

三豊市立河内小学校

六年 大喜多大矩

スギの苗親子で植えしふるさと

の山

四国中央市立金生第二小学校

五年 山原 瑠花

かまのほにしおからとんぼ一休み

今治市立別宮小学校

三年 田井 政晃

大きな木けつたらおちたカブト

ムシ

大洲市立長浜小学校

五年 島田萌々香

君いくつ話しかけたよ杉の木に

大洲市立豊茂小学校

五年 寺田 豪

えだうちではしごにのぼった夏

の空

大洲市立予子林小学校

二年 久保田駿汰

森の中おむすび二つピクニック

八幡浜市立松蔭小学校

六年 福富 彩乃

森の木が夕やけ空に染められた

宇和島市立高光小学校

六年 弓削 未結

森の中動物たちが遊んでる

鬼北町立愛治小学校

五年 横田 亜美

お姉ちゃんと野いちごとり合う

森の中

馬路村立魚梁瀬小学校

六年 伊吹麻依花

山仕事どろ汗にじむ父の服

馬路村立魚梁瀬小学校

四年 五百蔵真帆

馬路村さつばりゆずのいいかおり

(中学生の部)

四国森林管理局長賞

西予市立城川中学校

二年 富永遼太郎

夕焼けを父と背負って山下る

最優秀賞

香南市立野市中学校

三年 小西 見歩

満天の星を見たくて山登る

優秀賞

香南市立野市中学校

三年 庄境 諒

山の中桜の花びら散っている

大豊町立大豊町中学校

二年 今井 夏紀

夜の森光り輝くオリオン座

大豊町立大豊町中学校

三年 佐々木由芽

粉雪の白が大樹を包み込む

秀逸

香南市立野市中学校

三年 久万 朋香

学校の窓から見える青い山

香南市立野市中学校

三年 片岡 敦

森の中虫がとびかう夏の夜

大豊町立大豊町中学校

三年 西村 映美

風薫る山の麓の一軒家

大豊町立大豊町中学校

三年 澤 篤礼

日が沈み山を飛び交う赤とんぼ

大豊町立大豊町中学校

二年 上村 沙紀

森林の隙間に通す月明かり

大豊町立大豊町中学校

二年 白石 昌耶

残雪の山に響くよ鳥の声

本山町土佐町中学校組合立嶺北中学校

三年 田岡 竜成

妹がせみといっしょにいない

本山町土佐町中学校組合立嶺北中学校

三年 大石すみれ

宿題を終わらせるよとせみが鳴く

本山町土佐町中学校組合立嶺北中学校

二年 泉 円

木漏れ日の緑陰の下友を待つ

馬路村立馬路中学校

三年 東谷 柚季

駆けのぼり秋の山頂ダム遙か

八幡浜市立真穴中学校

三年 薬師神悦子

木イチゴを集めて母がジャムつ

くる

香南市立野市中学校

三年 結城 真実

滝の音ひびきたるよ山の中

香南市立野市中学校

三年 坂口 泰樹

森林の木々の小枝に小鳥来る

香南市立野市中学校

三年 細川 葵

春の森歩いていと鳥の声

香南市立青柳中学校

二年 細川 葵

花粉飛ぶ山道登りわらびとり

高知市立青柳中学校

二年 細川 葵

三年 小松 若葉

山の色だんだん染まる紅葉に

香南市立野市中学校

三年 仙頭 まどか

山行けばうぐいすの声響いてる

香南市立野市中学校

三年 西本 美咲

山仕事寒い時には大変だ

香南市立野市中学校

三年 仙頭 夏輝

山笑う熊も出て来い深呼吸

香南市立野市中学校

三年 武市 優也

オノの音緑の森にひびきけり

香南市立野市中学校

三年 福本 裕大

あたたかな日差しをあびる森の昼

香南市立野市中学校

三年 水田 和由

霧深く神秘漂う森の中

大豊町立大豊町中学校

三年 森下 卓也

雲海に顔をのぞかず山高し

大豊町立大豊町中学校

二年 吉村 友里

ふと見ると木々の間に縹雲

本山町土佐町中学校組合立嶺北中学校

三年 上舞 弥代

おいしげる山々飛び交う甲虫

本山町土佐町中学校組合立嶺北中学校

二年 右城 圭

花粉飛ぶ山道登りわらびとり

高知市立青柳中学校

二年 細川 葵

春の森歩いていと鳥の声

香南市立青柳中学校